

自然情報は「BOOK愛ランド礼文」にあります。

E-mail: rebuncle@lilac.ocn.ne.jp

レブンクル自然情報

カラーで自然情報を「http://www.h3.dion.ne.jp/ishida_h/index.htm」
「ゆうひの丘のHP <http://homepage1.nifty.com/seikanso/>」

エゾサンショウウオとの出会い

11月15日、元地から不思議な生き物が届きました。サンショウウオです。今まで私が礼文島で確認している両生類はエゾアカガエルだけでした。ヘビやトカゲなどの爬虫類も見ることがありません。ところが、その日届いたのは確かにサンショウウオなのです。家の裏の側溝の掃除をされていてカエルと一緒にでてきたそうです。見つけた方も持ってきた方も初めて見たと言ってました。利尻町立博物館に問い合わせた皮膚の色、指の本数などからエゾサンショウウオと同定しました。これまでに両島での記録は無いそうです。エゾサンショウウオはサンショウウオ目で北海道の森林に普通に生息し、同じ仲間として釧路湿原にのみ生息するキタサンショウウオがいるそうです。たった一匹なので誰かが持ち込んだものかも知れませんが。でももし元地の裏山でひっそりと暮らしているのならば、海を渡れぬサンショウウオがどのように島に住み着き、生き延びているのか興味がわいてきます。礼文の川にたくさん生息しているニホンザリガニも海を渡れない生き物で、日本海が淡水湖だった頃からの生き残りとの説があります。夏に遊歩道でたくさん見かけるカタツムリなども離島の中で独自に生き続けています。まだまだ未確認生物が息を潜めているかも知れない、礼文の山河ワクワクしますね。



ニホンザリガニ ・92.10.04. 宇遠内 礼文島では普通に見られるが、今年、環境庁が発表したレッドデータブックで絶滅危惧種に指定された。



エゾアカガエル ・92.10.24.香深井

礼文島の両生類は昭和38年、東京農業大学探検部調査によるとアマガエル、ヒキガエルの記録もあります。見たことのある方は情報下さい。

「やませの森」2000年秋植樹

10月14日礼文島自然クラブでは「やませの森」に秋植樹を行いました。参加者15名でナナカマド50本、ギンドロ100本植え付け、ミズナラのドングリ300個を埋めました。

礼文島は森が少ないのに水は豊富です。それは過去にあった森が、今でも水分を蓄える土壌を残しているからだと思います。現代人は伐採や火災で森林の多くの部分を失わせました。明治43年の山火は半月もの間燃え続けたと記録されています。植樹で地面を掘ると笹原の下には今でも炭化した木の根などが見つかります。森が豊かだった頃はどのような景色が広がっていたのでしょうか。鳥や動物もたくさんいたのではないのでしょうか。海ももっともっと豊かな海だったでしょう。森を育てることは、豊かな水、豊かな産物を未来の子供たちに残すことにつながると思います。私たちみんなで楽しみながら森作りをしませんか？
礼文島自然クラブは会員募集しています。

自然情報掲載HPアドレスの変更

http://www.h3.dion.ne.jp/ishida_h/index.htm

その後の宇遠内

前回の自然情報で宇遠内の工事についてご報告して以来、多くの方からメールや手紙で、ご意見やはげましをいただきました。本当にありがとうございました。その後思っていたよりも早い速度で、自然を修復するための動きが出ています。10月27日北海道自然保護協会より環境庁西北海道自然保護事務所に質問書が提出されました。きっかけになったのは本州からの観光客の訴えでした。高山植物の専門家である佐藤謙北海学園大学教授の調査データによるしっかりした内容のものでした。佐藤さんは来年の花の時期に来島して、植物の調査をすると申し出てくださっています。10月31日 環境庁西北海道地区自然保護事務所の坂本公園保護科長と稚内の大西自然保護官が現地を調査しました。その結果、20カ所ほどの改善の指示が礼文町に出されました。具体的には谷側に落とされた土砂を拾い上げ、広がりすぎた道の山側に押しつけること。外来植物の種の入った土嚢を撤去すること。むき出しのコンクリートなどの人工物は丸太や土で隠すこと、などです。

国立公園特別保護地区はあらゆる公益に優先して、自然環境保全を第一にすべき場所として、法律で守られています。そこに手を付ける場合にはいろんな制約があり特に新たな車道の建設は許可になることはありません。礼文島では桃岩周辺、宇遠内周辺など西海岸の地域の多くが特別保護地区に指定されています。

特別保護地区と人家は標高で隔てられているような場合が多い中で、高山植物が日本でもっとも低い場所で生育している礼文島では海岸の漁師の集落の裏山が希少植物を抱える特別保護地区なのです。それゆえに宇遠内はまれにみる美しい漁村でした。しかしそこに住む人がいるかぎり、車道を求める声も止むことはありませんでした。

一連の騒ぎの中で重大な認識の違いが明らかになってきました。環境庁はあくまでも歩道の修復を部分的に許可したのでした。具体的には4カ所、合計75m。修復箇所の道幅は最大で2m、橋の所のみ3mを認めるというものでした。(残りの部分は現道のままとする)それにたいして礼文町の工事は約3kmの歩道は全線2m以上となりカーブなどは最大幅6m、車両のすれちがいもできるような場所も作られました。礼文町だけでなく工事が終了するまでそれに気付かなかった環境庁の責任も大きいです。この道を環境庁の指示どおり修復するには作ったときの何倍ものお金がかかることでしょうか。時間もお金もきちんとかけて戻さなければ、新たな破壊を呼びかねません。大切な国民の宝を預かるがゆえの礼文町の苦勞をご理解いただき、国有林の地主である林野庁も、北

礼文島の花ガイドは
・ 礼文花の島花の道
北海道新聞社発行

海道も、環境庁も修復にお金と知恵を出しあっていただけないものでしょうか。町民も礼文ファンの旅の人もボランティアで協力し、裸になった斜面に種を蒔くなどのことはできると思います。また募金を集めて費用の足しにしてもらおうというのはどうでしょうか。呼び掛けるまえからレブングルには「使ってください」と現金書留が届いています。人間が地球の上にいるかぎり破壊は避けることはできませんが、それをいかに前向きな活動につなげていけるかを私たちは試されている、そんな時代が来たことを感じます。 杉田美野里



フタナミソウ二並草 ・ 99.6.19宇遠内

礼文島特産。二並山付近で発見された。
宇遠内山道はこの花が身近に見られる国内唯一の場所

10月の自然日誌

- 1日雷雨、雹が降った。4日虹。
- 5日虹。上泊ミツコビカモメ、ヒメウ35、ウミウ35。
金田岬ウミネコ多数、船泊ミツコビ、セグロ多。
久種湖カワアイサ、スズガモ、ヒドリガモ。
礼文林道ツグミ、コチョウゲンボウ？ 小型猛禽
クロジ死体・鉄府-野上
- 6日久種湖、雪虫、シロハラ、タヒバリ。
幌泊ジョウビタキ-富川
- 7日五番地アキアジ。船泊アオジ、ベニマシコ。
沼ノ沢ヤナギタケ。宇遠内エゾシロネ。
- 8日キノコの観察会、参加者17名、ポリポリ大漁、
- 16日センダイムシクイ？ 死体一津軽町片川、
ミヤマカケス見た。一鉄府片川
- 18日初雪。利礼航路全便欠航。ハクチョウ久種湖長尾
- 21日ウグイス保護一内路小・小本-放鳥。
オナガガモ雌死体一内路高島。
- 22日林道カシラダカ、ウソ、ツグミ、タヒバリ。
- 23日ウグイス雄死体一香深丸谷。
- 26日ミヤマホオジロ雄死体一大備新山。
香深ミツコビカモメ、ウミネコ、シノリガモ。
- 28日上泊ウミアイサ群。
- 30日オオコノハズク保護尺忍森尾